互いに学び合う
充実した授業づくりのために

実態と目標を踏まえた単元構想

□　単元目標達成のため、全体の見通しが明らかで１単位時間が適切に位置付けられた単元計画になっているか。

→　**単元全体で身に付けさせたい力を踏まえ、単位時間ごとのねらいや役割を明確に**することにより、単元全体を通して系統性ある単元構想を行う。

□　指導構想に、子どもの実態把握に応じた具体的な指導の手立てが取り入れられているか。

→　実態把握を授業の全般的な傾向等で行うのではなく、学習目標や授業テーマ等との関わりから、**授業に生かせる多面的な実態把握**を行うとともに、それに応じた具体的手立てを講じる。
※　実態把握の観点例
「既有の概念、経験」「既習内容の定着」「興味・関心」
「資質や能力」「学習特性」「つまずきの傾向」　等

本時のねらいを明確にした授業設計

□　授業設計に整合性が図られているか。

→　子どもの実態や単元・題材目標を踏まえた教材研究を深め、その目標と学習のねらいや学習課題、まとめとの関係や授業における学習過程のつながり、学習のねらいと評価規準の関係等に**ぶれが生じないように**する。

□　習得や活用の学習活動を授業の中に意図的に設け、思考力･判断力･表現力を育成しているか。

→　本時のねらいに沿って、**基礎的・基本的な知識・技能を習得させたり、それを意識的に活用したりする学習活動の関連**を図る。
→　**思考の過程を言語で表す**ことを重視し、教科等の特性に応じて言語活動を取り入れる。

学びがいのある学習課題の設定

□　子どもが考える必然性をもち、学習意欲を高める学習課題になっているか。

→　子どもの**知的好奇心や探究心を刺激する教材の提示や発問等**を工夫した導入を行う。
→　子どもの思いと学習のねらいに応じた「なぜ～」「どのように～」等**具体的な問いのある学習課題**の設定を行う。
→　学習の方向付けを明確にするために、**「問題」と「学習課題」を区別**して提示する。

□　子どもが「こうすればわかる・できるのでは」「こうじゃないか」という課題解決の方法や学習の見通しがもてるように学習課題を把握させているか。

→　**本時の学習にかかわる既習事項やその習得状況等を明確**にし、「何が、どのように関連しているのか」「どのように活用できるのか」等を確認したり、想起させたりする。
→　学習課題をわかりやすい言葉で明確に設定・提示するだけでなく、**子ども自身が「すること・考えること」を具体的に理解できる**ように、補わなければならないことについて発問や説明を加える。

考えをもたせる教師の働きかけ

□　子ども一人一人が自分の考えをもてるような発問や指示、指導を行っているか。

→　時間がかかりすぎないよう、学習課題の解決のために、子どもに思考させる活動や内容を精選する。
→　単なる「質問」ではなく、**考える視点や方法、手がかりを明確にした思考を促す「発問」**を行う。
→　子どもの「考え」や「考え方」、「学習状況」等を事前に想定し、**適切な机間指導**によりそれら見取り、つまずきに対する個別指導や**次の展開構想等を計画的に**行う。

□　子ども一人一人の考えが学習に深く関わる思考になっているか。

→　**既習事項を踏まえて**教材と向き合わせ、課題に沿った考えをもたせる。
→　表現方法を工夫したり、**効果的な言語活動**を取り入れたりして自分の考えを表現する力を付ける。

効果的な「学び合い」による「思考の共有と吟味」

□　教師によるコーディネートによって子どもの多様な考えを引き出したり、共有させたりしながら、全員が思考する学び合いになっているか。

→　一斉指導においては、**子どもの発言をつなぐ働きかけを意図的・計画的に**行い、一部の子どもの発言だけで話合いを進めたり、教師と子どもの一問一答になったりしないよう心がける。
→　話合いの質を高めるために、教科や教材に応じて思考力や想像力を働かせる発問を用意し、投げかける。

□　子ども自身が、何のために、何を、どのように活動するのか分かって交流し、自他の思考の違いやよさに気付くことができる学び合いになっているか。

→　**ペアや小集団にする必要性について吟味し、着地点を想定してテーマ、方法、視点等を明確に指示**し、単なる一人一人の考えの紹介で終わらないようにする。
→　話し方や聴き方、話合いの仕方、教科の特質に応じた考え方や論述の仕方を身に付けさせるとともに、一人一人の**よさを積極的に教師が認め、「個」を発揮させる**ようにする。

評価の工夫とまとめの充実

□　本時の学習内容を確実に身に付けることができるよう、学習過程における評価を指導に生かしているか。

→　評価計画において、**いつ・何を・どのように評価するかを明確に**し、達成状況に応じて**一人一人の子どもを伸ばす手立て**を講じる。

□　学習したことを振り返る場を工夫し、学習内容や活動に即してまとめたり、次時への学習意欲を高めたりしているか。

→　漠然とした感想を発表させたり書かせたりせず、**自己の変容を自覚する視点等を明確に示す。**
→　**構造的な板書や発達段階に応じたノート指導**を通して学習を振り返り、子どもの言葉や思考を生かして教師が**的確にまとめを行う。**
→　次時の学習とのつながりを重視する場合は、オープンエンド的な発問等によって、**次時に対する子どもの興味・関心**を高め、家庭学習への意欲をもたせる。

太文字は24年度の反省から心がけたいこと